



み な と

第 5 号

発行：社会福祉法人 みなと寮 ホームページ <http://www.minatoryo.or.jp>

新規事業としては、京都市の指定管理者として更生施設「京都市中央保護所」の運営を受託し、初めて大阪府域を越えて事業を開始しました。また、大阪府より「住宅確保要配慮者居住支援法人」として指定を受け、低額所得者、被災者、高齢者、障がい者などの住宅確保要配慮

法人の各施設・事業所については、利用者サービスの向上に努め、ほぼ順調に運営されました。平成29年度より事業部制を採用し、「生活福祉事業部」「介護保険事業部」を設けたことで、組織内連携がより活発になりました。

（事業報告）

5月28日に理事会、6月25日に定時評議員会を開催し、平成29年度事業報告並びに決算について審議を行いました。平成29年度決算については、社会福祉法改正に伴う制度改革による初めての決算となります。特に、当法人は会計監査人設置社会福祉法人として、平成29年度決算より会計監査人による監査が義務づけられていますので、監事に加えて会計監査人の監査を受けました。

その結果、計算関係書類及び財産目録が法令及び定款に従い法人の財産及び収支の状況を適正に表示しているものと認めるとの監査意見をいただきました。このことから、法第四十五条の三十一により「計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録」の内容について定時評議員会に報告いたしました。

事業報告及び計算関係書類については、ホームページ等で開示しますが、主な概要は次のとおりです。

平成29年度事業報告・決算報告

者への支援を開始しました。

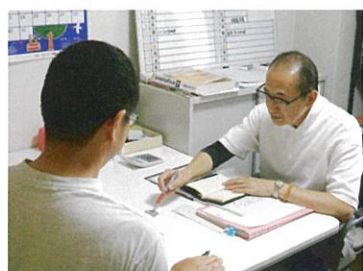
一方で、41年余に渡り運営してきた救護施設「大阪市立港晴寮」が大阪市の指定管理期間満了をもって事業終了となりました。

（決算報告）

貸借対照表では、事業運営による資金の増加、将来の整備資金の積立増など、順調に推移し、法人全体の経営状況は安定していると考えています。事業活動計算書におけるサービス活動収益は、42億4千万円を計上し、昨年度に比べて8千6百万円の増額となりました。しかし内訳を見ると、介護保険事業収益が対前年度で58万円の減となりました。引き続き介護報酬改定の影響と、特に在宅部門の利用率の伸び悩みが原因と考えています。生活保護事業収益は、新規事業を開始したことにより8千8百万円の増収となりました。費用としては、人件費が1億20万円の減で、介護人材の確保が厳しいことの現れと考えています。これらの要因はありますが、サービス活動増減差額は、前年度に比べ1億1千万円の増額となり、当期活動増減差額は8千9百万円を計上しました。

（その他）

平成29年度決算における社会福祉充実残額はありませんでした。



地域で安心して暮らしていただけるよう努めています。

今後、多くの方々の力になれるよう努めていく所存です。

〔居住支援事業担当 根塚 巖〕

住宅確保要配慮者 居住支援事業を開始

住宅セーフティネット法が改正され、住宅確保要配慮者（低額所得者・高齢者・障がい者・子育て世帯等）の入居を拒まない賃貸住宅の登録制度が創設されました。

当法人は、OSAKA あんしん住まい推進協議会・居住サポート会員となり、居住支援法人として指定を受けて、千里サテライトサポートステーションにて事業を開始しました。

この事業では、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅等への円滑な入居の促進を図るため、地元社会福祉協議会、不動産会社等との連携、さらに構築したネットワーク等を活用し、地域包括支援センターをはじめとした適切な機関に繋ぐなど、円滑な地域生活の実現に向けた支援を行います。

要配慮者の方々に円滑な地域生活を送っていただくには、住まいの確保と入居後の生活支援が一体となった取り組みが必要です。

具体的には、入居前の相談、不動産店舗への同行やコーディネート、契約手続き、入居時における保証等の取り次ぎ、引越し等をサポートします。

入居後は、定期的な訪問を行い、健康や生活上の不安、その他お困り事の相談に応じ、地域で安心して暮らしていただけるよう努めています。

トピックス

チャリティー自動販売機を設置しました。

5月より、みなと寮、りんくうみなと、愛港園、第2愛港園に各1台ずつ、日本財団チャリティー自販機を設置しました。飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクト（子どもの貧困対策支援・災害復興支援特別基金など）に寄付できる自販機です。

設置してから、多くの職員や利用者がこの自販機を利用しています。これを機に、多くの利用者が、社会貢献意識、社会参加意欲を持って頂ければと思います。



愛港園

第2愛港園



りんくうみなと

みなと寮



共済会ソフトボール大会に出場 5連覇!!!!達成!

5月24日、今年も共済会主催施設職員ソフトボール大会が開催され、当法人も参加しました。当日は天気にも恵まれ、夏の様な日差しが照りつける中での大会となりました。



今大会24日の部は大阪府下の福祉施設から17チームが参加し、白熱した戦いが展開されました。当法人からは2チーム出場させて頂きました。みなと寮Aチームはシードにより決勝トーナメントから出場し、他法人の職員の方々とも交流を深めながら楽しくプレーし、今年も優勝することが出来ました。来年度、第31回大会でもベストを尽くし、大会6連覇できるよう一層励んでいきたいと思ひます。

このたびの西日本を中心とする大雨災害により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。また被災された福祉施設の1日も早い復旧をお祈り致します。

生活福祉事業

平成30年林間学校

平成30年7月3日～4日に法人内の4つの救護施設の合同行事『林間学校』として、山中温泉に出かけました。道中は、それぞれの施設で、日本自動車博物館・箸作り体験・敦賀ムゼウム・加賀フルーツランド・月うさぎの里・松井秀喜ベースボールミュージアム・日本折紙博物館などに立ち寄りしました。宿泊先は、昼ドラ「はるちゃん」の舞台になった「翠明」。利用者の皆さんは山海の幸に舌鼓を打たれ、山中温泉旅館協同組合が運営する「山中座」の山中祭り獅子踊りなどの演目を鑑賞し、その後のくじ引き大会でも大いに盛り上がりました。

この『林間学校』は法人内施設利用者の貴重な交流の機会です。法人の行事として、これからも継続できるように取り組みたいと思います。

〔救護施設こうせいみなど 内堀世紀〕



松井秀喜ベースボールミュージアム



日帰りレクリエーション

生活福祉部事業部の各施設では、いろいろな日帰りレクリエーションを行っています。レクリエーションは、施設で企画したものや、ご招待を頂くものなどさまざまです。利用者のみなさんは、いちご狩りや、相撲、落語、サーカス、生け花体験などを楽しんでいきます。中には同じレクリエーションに長年続けて参加され、地域の方々との交流を深められている方もおられます。

私たちは、これからの利用者のみなさんの生活が充実したものであるよう、さまざまな支援に取り組んでいきます。

〔救護施設りんくうみなど 尾花昌昭〕



いちご狩り



ハッピードリームサーカス(ご招待頂きました。)



やすらぎサロン(生け花体験)



西日本実業団相撲選手権大会



お笑いなにわ祭り

公益的な取り組み

毎号シリーズで公益的な取り組みを紹介していきます。第5号は救護施設みなど寮の取り組みです。

みなど寮が開所時より続けている地域公益活動の中に「観心寺清掃」があります。

真言宗修行の拠点であり、約1300年前に開かれた観心寺は、真言行者の高野山と京都の中宿として栄えた寺であり、境内の金堂は国宝に指定されています。

そんな由緒のあるお寺に、職員・利用者が定期的に赴き、清掃活動を行っています。観心寺に来られる多くの方々へ気持ちよく参拝して頂けるよう境内やそれに続く石段のゴミ拾い、落ち葉拾いに取り組んでいます。

10名ほどの利用者が、自らほうきやちりとり、軍手など清掃道具を用意して、「今回もきれいにしてくるわ」などと言気込む様子も見られます。



観心寺清掃のようす

多くの皆さまが利用される場所を清掃するということの活動に、今後も多くの利用者が自発的に参加し、社会参加意欲、地域貢献意識をもつていただけたらと考えています。

〔救護施設みなど寮 尾崎浩一〕

風船バレーボール大会準備優勝!



近畿地方が梅雨入りして間もない6月10日、大阪府吹田市にある目依体育館にて吹田地区特養対抗風船バレーボール大会が開催されました。吹田地区特養連絡協議会が主催するこの大会は、事業所同士の連携を強化すると共に、利用者の楽しみと社会参加にも繋がっています。

今年で17回目を迎え、11施設が参加しました。熱戦が繰り広げられた今大会は、昨年の優勝チームが1回戦で敗れる大波乱もありました。弘済院第1特養は新たなメンバーも加わり職員もあわせて20名が参加しました。1回戦は逆転勝ちで突破するとその勢いに乗り、見事に勝ち上がり決勝戦へ。手に汗握るラリーが続き優勝目前まで来ましたが、残念ながら準優勝となりました。優秀選手賞には弘済院第1特養の利用者が表彰されました。風船を追う利用者の真剣な眼差しと、見守る職員の温かい笑顔が素敵で、梅雨の晴れ間に思いに残るイベントとなりました。

〔弘済院第1特別養護老人ホーム 酒井康裕〕



みなどデイサービスセンター

6月6日(水)、デイホールにて毎月恒例・アソカ学園との交流会が行われました。アソカ学園は、大阪府港区夕風にある、私立の保育園です。園にお伺いすると、子供達が土の園庭を元気に走り回って過ごしている様子が見えます。0歳児から5歳児までの子供たち約250人、のびのび元気に育てておられることが、よく分かります。

私たちみなどデイサービスセンターとの交流が始まったのは、アソカ学園にお子さんを預けて働きに来ているスタッフがいたことがきっかけです。

「デイのお年寄りに、園児さん達が会いに来てくれたらいいのにね」。そんな何気ない一言がきっかけで、デイの生活相談員が保育園の園長先生にお願いしに伺いました。

偶然にも、デイの相談員が学生時代に通っていた専門学校の先輩がアソカ学園に勤めていたなんていうご縁も重なり、平成28年度から毎月1回の交流会が始まりました。

今日の始まりは、園児さん達による歌の披露。『おもちゃのチャチャチャ』と『アンパンマンの歌』の合唱でした。元気な歌声に、利用者から大きな拍手が起きました。

次に利用者同士に並び2チームを作り、タオルを使った物送りゲームを行いました。園児さんと利用者同士が両端を持ったタオルの上におもちゃを乗せ、隣の組のタオルの上におもちゃを渡していくゲームです。

渡すときのタオルの傾き加減が難しく、床に落としそうになったりして大盛り上がり。園児さん達はもちろんのこと、利用者も相手チームに負けたくない思いでヒートアップしていました。結果は両チーム1対1の引き分けとなりました。さて、今日の最後のアトラクションは、園児さん達に『うまい棒』



のつかみ取り競争をしてもらいました。物干し竿に洗濯ばさみでぶらさげた『うまい棒』。ちよつと飛び上がらないとつかめないぎりぎりの高さのそれを、一生懸命ジャンプして上手につかみ取って下さいました。最後は園児さん達の頑張る姿をデイの利用者様も必死で応援し、楽しい時間を過ごすことができました。早川園長先生はこの交流会について、こうおっしゃいます。

『子供たちに話を聞くと、「おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にゲームができて楽しかった。また一緒に遊びたい」おじいちゃん、おばあちゃんがやさしくしてくれて、とても嬉しかった」と言っていました。

引率の先生からは「子供たちがおじいちゃん、おばあちゃんとふれ合い、親しくお話しているのを見て、子供たちにとっても良い機会だと思えました。お互いにすごく喜んでる姿を見られて良かったです」という感想を話してくれました。これからもよろしくお願いします。

早川先生は、毎回マイクロパスで園児さん達を送迎しても下さいます。

利用者は、「子供達を見ると元気が貰えて嬉しいわ」「次いつ来るの?」とおっしゃいます。毎月この日を楽しみにしているようです。

このような交流会をこれからも続けていきたいと思えます。

〔みなどデイサービスセンター 所長 宮武信行〕

介護保険事業